

週刊 座、グレート・リーダーズ通信

『インド私録-思い切り取り組んだこの 50 年-』 No.10

今週のキーワード！ 州

その再編と独立

『インド私録』で来日のエピソードが非常に印象的だったモラルジー・デサイ副首相(インディラ・ガンディー政権)は、1950年代に現在のマハラシュトラ州とグジャラート州を合わせたボンベイ州の首席大臣であったことが紹介されております。「ボンベイ州」とは聞きなれないと思われた方も多かったことでしょう。

番組でもその点について武藤氏に質問をして、ボンベイがもともと州名であったこと、言語によって 2 州に分けられたという経緯が紹介いたしました。

インドの州がこのように言語をもとに分けられたのは、1956年に実施された言語別州再編法によるものです。インドの行政区画は 1950 年 1 月 26 日に発効した憲法により連邦制をとることになり、それに伴いそれまでの旧英領インド諸州、旧藩王国、旧政府直轄地という 3 つの区分けが廃止され、新たに 14 州および 6 直轄地という構成になりました。

ボンベイ州もこのとき誕生しましたが、もともと大きく分けてグジャラーティ語、マラティー語の使用地域を併合していたため、1960 年にはそれぞれグジャラー

ト州とマハラシュトラ州とに分割されたのです。そのほかにも使用言語や民族・宗教の違いや政治的判断による州の分割・創設を繰り返し、現在では 29 州(デリー首都圏含む)と 6 直轄地という構成に落ち着いていますが、今でも言語や文化などの違いから単独の州として独立しようという動きが各地にあります。昨年 12 月に政府が分離・新州創設の手続きを進める発表をしたことが報じられたアンドラ・プラデシュ州のテランガナ地域もその 1 つです。

なお、1956 年の言語州再編法によりできた 14 州はボンベイ州のほかに、アンドラ・プラデシュ州、アッサム州、ビハール州、ジャンムー・カシミール州、ケララ州、マディヤ・プラデシュ州、マドラス州、マイソール州、オリッサ州、パンジャブ州、ラジャスタン州、ウッタル・プラデシュ、西ベンガル州がありました。

豆知識

インドの首都はデリーかニューデリーか

正解はデリーです。正式には、The National Capital Territory of Delhi(デリー首都圏=NCT)といっています。連邦を構成する行政区分の一単位で、州と並ぶ資格を有しています。ニューデリーが国会議

事堂はじめ官庁や各国大使館、企業のオフィスなど首都機能が集中することから首都と間違われがちですが、首都はデリーなのです。

朗読者ご紹介

快談！ 五月女雅美さん

「座、グレート・リーダーズ」も今週で第 12 回。そこで、朗読&トーク番組の重要な役割を担う 3 名の朗読者について順にご紹介していくことにいたします。まずは五月女雅美さんから。2 人のお子さんのお母さんであり、インド総研の代表、西田の子供たちが通う小学校で読み聞かせのボランティアをしていらっしやいました。「数年前に PTA 行事でお化け屋敷があったとき、怪談のコーナーで朗読されていて、それがあまりにもよくできていてとても印象に残っていました。今回の朗読のオーディション(7 名のエントリーがありました!)にあたってこのことを思い出し、お声かけしたのでした」(西田)。インドには全くご縁がなかったそうですが、「インドを身近に感じながら楽しく読んでいます。夫や子供とインドの話をするのも」とのこと。

第 13 回放送は
8 月 24 日です。

